

叱る

二人の娘が、私に叱られた思い出話をすることがある。上の娘は、4歳の頃、妹のおもちゃを力ずくで取り上げたとき、どなられたこと。下の娘は、小学3年生授業参観のとき授業終わりの挨拶の前に、勝手に教科書、ノートを片付けたとき、授業が終わって人前で、私から厳しい注意をうけたこと。それぞれの光景が私の脳裏にもある。なぜ叱ったのか、私が許せない、悲しいと思ったからである。叱るとは、親の思いを伝えるために行うことであろう。その思いの内容や伝え方次第で、子育てが変わるような気がする。

アイメッセージ

「アイ」というのは、英語の「I」のこと、つまり「私は」という意味です。自分の思いや感情を言葉で伝える時に、この「I」を使う優しい表現になります。「私は、あななが～してくれると嬉しい。」「私は、あななが～すると悲しい。」等・・・。

たたかれていい子どもなんて、いないんだよ。

子どもがもっている権利

- たたかれたりひどいことを言われない
- 元気に・健康に毎日すごして成長する
- 保護者の人から守ってもらえる
- 自分の意見を言う話を聞いてもらえる

これは、世界の国々で約束されている、子どもの権利です。誰からも、この権利を奪われることがあってはいけません。

おうちの人や大人の人から、たたかれたり、ひどいことを言われたりしたら、一人で悩まないで、なにか心配なことがあったら、信頼できる大人の人に相談しよう。あなたの力になりたいと思ってる人は、たくさんいるよ。

電話でも相談できます

厚生労働省 児童相談所 189
児童相談所 相談専用ダイヤル 0120-189-783

https://www.mhlw.go.jp/sd/04/01/01.html

登校中の交通安全指導より

冬を迎え、朝の寝起きが辛い時期となりました。子供たちも、なかなか布団から出てこないのではないのでしょうか。

朝の気温が下がり寒さが感じられます。すると、朝の登校が遅くなっている子や早すぎる子、登校時間が不安定な子が増えているように感じます。集団登校に参加している子供たちは、時間的に制約がありますので、安定した登校となっているようです。集団登校に参加していない子供たちの中に、その時間が気ままになっている子がいるようです。

やはり、決めた時刻に起きて、決めた時刻に家を出ることは、子供たちの将来を考えたとき、働くための生活リズムの基盤となるのではないのでしょうか。

ご家庭によって、様々な事情があると思いますが、「(決めた時間に)早寝、早起き、朝ごはん」の生活リズムを整えていただきますようお願いいたします。

11月児童虐待防止推進月間

毎年、11月は児童虐待防止推進月間となっています。残念ながら、全国的に新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、児童虐待は増加傾向にあります。児童虐待には身体的な暴力だけでなく、ネグレクト等も虐待に含まれています。今一度、子育てについて大人の役割を考えてみる必要があるようです。

遅くなりましたが、文部科学大臣より、児童虐待に関するメッセージがありますので、ご一読いただけたら幸いです。

保護者、学校関係者、地域の皆さまへ

「児童虐待の根絶に向けて ～地域全体で子供たちを見守り育てるために～」(令和3年10月26日)

11月は児童虐待防止推進月間です。

子供たちへの虐待は、児童相談所の相談対応件数(速報値)が初めて20万件を超えるなど、極めて深刻な状況です。新型コロナウイルス感染症の影響による生活不安やストレス等に伴い、児童虐待のリスクが一層高まっています。児童虐待により子供たちが傷つき、亡くなるようなことは、何としても無くさなければなりません。

虐待は、殴る、蹴るといった身体的虐待だけではなく、言葉で脅す、無視するなどの心理的虐待、家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にするなどのネグレクトや性的虐待もあります。いずれも子供たちの心身に深い傷を残します。

保護者の皆さま、大切なお子さまの健やかな成長のため、「虐待はしない」と誓ってください。心に余裕がない時はストレスの解消など、皆さま自身が休むことも大切です。子育てに不安や悩みがある時には、身近な人に相談したり、自治体の相談窓口等を頼ったりしてください。

学校関係者の皆さま、日頃から子供たちと接する中で、児童虐待と疑われる事案に気付いた際は、速やかにチームとして対応し、市町村や児童相談所に通告するとともに、関係機関と連携して対応してください。

地域の皆さま、是非、子供や保護者の様子に関心を持って見守ってください。不自然な傷のある子供や子供の養育に関心ない保護者など、虐待が疑われるサインに気付いた際は、最寄りの児童相談所に繋がる全国共通ダイヤル「189」(“いちはやく”)に相談・通告してください。

児童虐待の防止には、家庭・学校・地域が一丸となって子供たちを見守り、育てることが重要です。文部科学省としても、関係省庁とともに取組を推進してまいります。皆さまの御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

令和3年11月

文部科学大臣

末松信介

